

舞鶴から希望の京都をつくろう！～地域力の創造と市民の幸せを目指す～

京都府議会議員

# 池田まさよし 通信

発行：池田まさよし事務所

【第39号】

〒624-0853 舞鶴市南田辺71番地1 TEL:0773-77-1722 FAX:0773-77-1723 ホームページ <http://www.ikedakai.net>

今回の補正予算は、新型コロナウイルス感染症の5類移行後、5年ぶりとなる平常モードで編成されたものであります。

「大阪・関西万博」の開催まで300日をきりました。西脇知事は以前、万博の成功とは何かとの質問に「万博の理念の下に人や企業が集まり、異なる文化的背景を持った方とのつながりを生み出し、未来の京都を担う人材や企業、産業や文化が育つことが京都府における成功だと」答えられました。今回の補正予算を通じて、是非とも万博の成果を万博会場だけにとどめることなく、京都府域にも広がる取組になることを期待しております。私は、今回の代表質問でも府市トップミーティングについて質問しました。その際も申し上げたのですが、京都府と京都市の協調した取組の効果を府域全体に広げていこうとされる西脇知事の考えに強く共感し、心強く感じています。そして、具体的な施策の第一弾となる周遊観光の予算も提案されました。その他の補正予算についても、中北部地域における医師不足に対応するための新たな対策や温室効果ガス排出量削減に向けて事業者向け太陽光発電設備等の設置支援策など時宜にかなったものであります。

さて、先日、骨太の方針2024が閣議決定されました。我が国経済を「成長型の新しいステージ」に移行させるためのビジョンや戦略を示すもので、物価上昇を上回る賃上げの定着に向けた、生産性向上や労働市場改革、金利のある世界での財政の信頼の構築に向けた取組に加え、何よりも、少子高齢化・人口減少のなかにあっても経済が成長するための道筋を示すものとなります。

これからも、農林水産業の振興や国道27号西舞鶴道路、東西間を結ぶ白鳥トンネルの4車線化などのインフラ整備等、地域の声を府政に届けて参りますので、ご指導・ご鞭撻何卒よろしくお願ひいたします。



京都府議会議員

池田正義



令和6年4月25日 久田美災害復旧工事



令和6年5月25日 護衛艦やはぎ入港歓迎行事



令和6年6月6日 池内振興協議会 府要望

## 令和6年度6月補正予算の概要 総額37億5,100万円

### 1. 大阪・関西万博開催に向けた取組

- ◆関西パビリオンの多目的エリアにおいて京都の多様な魅力を発信 … 2,000万円
- ◆精華大通りにスマートインフラを整備することで持続可能な実証環境を構築 … 5,000万円



### 2. その他の施策

- ◆府市トップミーティングの成果として、はじめての施策となる周遊観光に着手 … 1,000万円
- ◆緊急的な医師確保対策を実施することで中北部地域の医師不足に対応 3,400万円
- ◆太陽光発電設備等の設置支援により府内の温室効果ガス排出量を削減 1億800万円
- ◆多用途施設として整備するアリーナを核とした向日市をはじめとする周辺市町との協働によるまちづくりを検討 … 100万円
- ◆人・物・情報・日々の生活の基盤づくりを加速化(公共事業) … 35億2,800万円

## 6月定例会 代表質問に登壇（質問と答弁の概要）

### 1. 府市トップミーティングについて

**【質問】**本年4月に西脇知事と松井京都市長との間で、初めての府市トップミーティングが開催されたが、その成果はどのようなものであったのか。また、府市協調の成果や効果を、京都市域に留めることなく、広く府域に届ける取組も非常に重要であると思うが、今後の展望はどうか。

**【西脇知事答弁】**府と市が核となり、周辺自治体や国内外の経済界・大学等を巻き込むなど、オール京都の枠組みを進化させ、より高いレベルの府市協調の取組を実現したい。会談では、観光や文化、産業、子育て、教育などをテーマに問題意識を共有し、そのうち、教育分野では、今年度から府立高校と市立高校が探求学習を合同で行う、観光分野では、府と市が連携して「周遊」をコンセプトとした観光を推進することについて合意しました。

成果となる具体的な施策の第一弾として、府域と市域の周遊観光に係る補正予算を今定例会に提案させていただいた、京都市においても同額の予算が提案されており、スピード感をもって喫緊の課題解決に取り組みます。今後の展望については、議員ご指摘の通り、府市協調の成果を広く府域に波及させることは府域全体の発展に非常に重要です。例えば、府立高校と市立高校の連携事業は、スケールの大きな学びを創出するため、京都に集積する大学や企業と連携し、府内全体の府立高校生にあらたな刺激と学びあうきっかけを提

供します。また、周遊観光では、松井京都市長から、先日の「知事・市町村会議」において、「府内の自治体と連携して、京丹後・けいはんな・山城など北から南まで府域全域を対象に、分散型・周遊型で国外からの観光客に京都を巡っていただくことに注力したい。」との発言をいただいており、府市協調取組を更に発展させ、持続可能な観光振興を実現します。今後のトップミーティングについても、時期を固定化することなく機動的に開催し、例えば、大学との連携や若い発想を取り入れた伝統産業の振興、半導体産業の集積を図るなど若者に魅力的な新産業の創造、文化首都・京都の実現に向けた府市連携で効果のある文化施策など、前回問題意識を共有することのできた項目について、引き続き、議論を深めていきます。京都市域にとどまらず、府域全体の発展に繋げる高いレベルの府市協調に取り組みます。



令和6年6月13日 代表質問に登壇

## 2. 水産業振興を通じた漁村の活性化について

**【質問】**これまでの「丹後とり貝」や「ズワイガニ」等の府内産水産物のブランド化の取組は、市場や観光関係者から高く評価されている一方、消費者や地域の観光客に府内産水産物の魅力を十分に伝えられていないと考える。今後、漁業者の所得確保や府北部地域の活性化に向け、水産業のブランド力強化や付加価値向上につなげるための取組が必要と考えるがどうか。

**【西脇知事答弁】**水産業振興を通じた漁村の活性化についてですが、水産物のブランド化を発展させるためには、旺盛な需要に対する供給力を高めるとともに、水産物の魅力を地域で味わい、体験できる場を創出するなど、生産と販売の両面から取組を強化する必要があります。

生産対策では、「丹後とり貝」などの養殖二枚貝の生産量を確保するため、漁場拡大に必要な養殖施設の導入や、「海の民学舎」における養殖技術の習得などに対する支援を強化します。さらに、「京鱈」や「寒ブリ」などが高品質で安定的に取引されるよう、高鮮度出荷に必要な活締め技術の普及・拡大を、関係団体とも連携しながら進めています。

販売対策については、観光と連携した漁家民宿やレストラン、体験漁業などの海業を通して、水産物の価値や魅力を伝えることが、新たな需要の創出につながるものです。

京都府では、とれたての水産物など、地域の特産物を使った加工品や料理が現地で堪能できる食の拠点づくりを進めることとし、道の駅や直売所を「食の京都TABLE」として選定し、イートインスペースの設置や地域の「いちおし商品」の開発などを支援しており、現在北部地域7箇所で展開しています。

さらに、新鮮な魚介類が水揚げされる漁港で、海の幸を堪能できるよう、府の漁港管理条例を見直し、長期にわたり海業を展開できる環境を整備したところであり、今後、漁業者が、マーケティングや販売などのノウハウをもつ事業者と連携し、所得と雇用を生み出せるよう伴走支援していきます。

このような対策を進めても、ひとたび、今般の「間人ガニ」のタグ不正利用のような事が起これば、地域活性化に取り組む関係者の努力によって築き上げてきたブランド価値が失われかねないことから、漁業関係者の意識の醸成を図り、産地一丸となり、ブランド管理を徹底します。

今後とも、府内産ブランド水産物に対する生産、販売の両面からの支援を強化し、漁村地域の活性化につなげていきたいと考えております。



舞鶴力二

※イートインスペースとは、食料品を購入してそのまま店内で飲食する場所。

## 3. 活力ある持続可能なまちづくりについて

**【質問】**人口減少が進む中、府民生活に不可欠な都市機能の利用効率を高めるためには、多数の府民が機能を利用するため手軽に安全に移動できるネットワークの構築が重要と考える。とりわけ舞鶴市が取り組む「舞鶴版コンパクトシティ」の形成においては、東舞鶴と西舞鶴をつなぐ府道小倉西舞鶴線の歩道付き4車線化事業がカギとなるが、事業の進捗状況や供用見込みはどうか。

**【西脇知事答弁】**市町村が行う持続可能なまちづくりへの支援のひとつ、府道小倉西舞鶴線の4車線化について、舞鶴若狭自動車道が4車線化されるまでの間において、万一、広域避難の必要が生じた際に、一部の交通を分担する機能を発揮することも期待できると考えています。

このため、府としては、かねてより小倉西舞鶴線において、白鳥トンネルの前後を含めた約1.4kmの区間を4車線化する事業を進めてきました。

本事業は、大きく2つの工程から成り、まず、トンネルの新設を含む2車線の道路を造る工事を行い、その後、既設トンネルの断面拡大工事を行う予定としています。令和4年2月から、新トンネルの掘削に着手し、令和5年1月に貫通



白鳥トンネル西側

したところであります。今後は、令和7年春に新トンネルを供用させることを目標として、新トンネル内の設備工事や舗装工事を進める予定としています。

さらに、新トンネルの供用後は、既設トンネルの断面拡大工事に

**【質問】**水産資源を活かした府北部地域の活性化のためには、その基盤である水産物の生産の安定的な維持が不可欠であり、今後そのための技術開発や技術を活用できる人材の育成がますます重要となることから、今後の水産業振興のためには、海洋センターの機能強化が必要と考えるがどうか。

**【西脇知事答弁】**海洋センターは、これまでから、ズワイガニの資源管理手法や、「丹後とり貝」の種苗生産及び育成技術などの開発により、「とる漁業」と「つくり育てる漁業」の両面からブランド水産物の生産振興に貢献してきました。

近年は、特に、気候変動がもたらすリスクへの対応や、美味しさ、新鮮さに加え、健康機能性など、多様化する消費者ニーズへの対応が求められており、必要とされる技術も高度化・複雑化していることから、異業種を含む産学公連携による幅広い研究体制の構築に努めています。

気候変動への対応では、先般、海洋センターが京都大学と連携し、二枚貝の大量死の原因となる低酸素濃度の海水移動メカニズムを全国で初めて解明し、担当職員が全国水産試験場長会 会長賞を受賞したところであり、今後、この成果を二枚貝養殖の安定生産システムの開発につなげていきたいと考えています。

また、台風などで急激な潮の流れが発生し、定置網が破損するリスクを低減するため、大学や漁業団体と連携して、潮の流れや水温など海の様子を数日先まで予報するシミュレーションモデルを構築することにより、定置網漁業の経営の安定化を目指します。

多様化する消費者ニーズに対しては、昨年度に設置した「京都フードテック研究連絡会議」のネットワークを活かして、中食などの加工食品や、機能性食品の研究開発を進め、付加価値の高い新商品開発につなげていきます。

さらに、企業的経営を担う人材の育成も重要なことから、「海の民学舎」において、スマート技術や6次産業化などのニーズに応じた技術指導や、先進経営体への派遣による経営ノウハウの習得など、研修の充実を図り、経営力のある担い手の育成・確保に努めます。今後とも、海洋センターが、収益力が高く魅力ある水産業の実現と担い手の経営発展につながる研究拠点としての役割を果たせるよう、機能強化に取り組みます。



海洋センター(種苗生産施設)



## 〈知事『新白鳥トンネル来春開通目指す』〉

着手する予定ですが、早期の工事完了には、国費補助の継続や拡充など財源の確保が欠かせないところです。

関係の皆様と協力して道路整備の必要性の声を国に届けることも含め、4車線化の早期実現に向けて積極的に取り組んでいく考えです。



白鳥トンネル東側

### 池田まさよし事務所 ご案内

#### 西事務所 舞鶴市南田辺71番地1



TEL(0773) 77-1722 オープン時間  
FAX(0773) 77-1723 10:00~16:00

#### 東事務所 舞鶴市森本町29-5



TEL(0773) 77-5670 オープン時間  
FAX(0773) 77-5671 10:00~16:00  
✉ m.ikeda@kyotofugikai.jp

お気軽に  
お立寄り  
下さい



京都府の  
ホームページも  
ご覧いただけます



市民の皆様からのご意見・ご質問も受け付けております。